



Title	Associations With Eicosapentaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratio and Mortality in Hospitalized Heart Failure Patients(内容・審査結果要旨)
Author(s)	渡邊, 俊介
Citation	
Issue Date	2018-03-21
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/739
Rights	© 2016 The Author(s). Published by Elsevier Inc. This is an open access article under the CC BY-NC-ND license. Published version: J Card Fail. 2016 Dec;22(12):962-969. doi: 10.1016/j.cardfail.2016.04.017.
DOI	
Text Version	ETD

This document is downloaded at: 2023-02-05T20:19:09Z

論文内容要旨

しめい 氏名	わたなべ しゅんすけ 渡邊 俊介
学位論文題名	Associations With Eicosapentaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratio and Mortality in Hospitalized Heart Failure Patients
<p>背景： n-3 多価不飽和脂肪酸 (n-3 PUFAs)の摂取は、動脈硬化性心血管イベント、特に虚血性心疾患のリスクを減少させることが報告されており、近年 n-3 多価不飽和脂肪酸の一つであるエイコサペンタエン酸 (EPA)と n-6 多価不飽和脂肪酸の一つであるアラキドン酸 (AA)の比が、心血管疾患のリスクマーカーとして認識されてきている。しかしながら、心不全患者における EPA/AA 比と生命予後の関係については明らかではない。</p> <p>方法と結果： 当院へ入院した連続 577 人の心不全患者を、EPA/AA 比の中央値で low EPA/AA 群 (EPA/AA < 0.32 mg/dl, n = 291)と high EPA/AA 群 (EPA/AA ≥ 0.32, n = 286)の 2 群に分類し、2 群間における患者背景や血液検査結果、心臓超音波検査所見などについて比較し、心不全患者の予後との関連について検討した。2 群間における貧血、慢性腎臓病などの併存疾患の有病率、肥満度指数、血圧、栄養状態、血清ナトリウム値、B 型ナトリウム利尿ペプチド値、左室駆出率など一般的に心不全の予後と関連する背景因子に関して、有意差は認められなかったが、high EPA/AA 群に比べて low EPA/AA 群において心臓死は有意に高率であった (12.7 vs 5.9%, log-rank P = 0.04)。さらに、多変量 Cox 比例ハザード解析にて交絡因子を調整後、検討した結果、EPA/AA 比が低値であることが心不全患者における独立した予後予測因子であることが明らかとなった (HR 0.677, 0.453-0.983, P = 0.041)。</p> <p>結論： EPA/AA 比は心不全患者における独立した予後予測因子であり、EPA/AA 比の適切な管理が心不全患者の予後に寄与する可能性が示唆された。</p>	

学位論文審査結果報告書

2018年1月4日

大学院医学研究科長 様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

【審査結果要旨】

氏名：渡邊 俊介

学位論文題名： Associations with eicosapentaenoic acid to arachidonic acid ratio and mortality in hospitalized heart failure patients.

申請者らは、福島県立医科大学へ入院した心不全患者を Eicosapentaenoic acid/arachidonic acid (EPA/AA)の中央値で2群に分け予後を調べた。low EPA/AA (<0.32 mg/dL、n=291)は、high EPA/AA 群 (≥0.32 mg/dL、n=286) に比べて心臓死が多かった、Cox 比例ハザード解析で交絡因子を調整しても low EPA/AA は予後予測因子であった (ハザード比 0.677、95%信頼区間 0.453-0.983、 $p=0.041$)。以上より、EPA/AA 比は心不全患者における独立した予後予測因子であり、EPA/AA 比の適切な管理が心不全患者の予後に寄与する可能性があることを示唆した。

研究の計画と実施は適切に行われており、結果と最終的な結論は妥当である。本研究内容はすでに英文学術雑誌に受理されており、学位論文審査会での質疑応答も適切であった。以上より本学学位論文としての条件を十分満たしていると判定した。

論文審査委員

主査 島袋 充生

副査 桃井 伸緒

副査 佐戸川 弘之